

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1176501987		
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家 与野大戸		
所在地	埼玉県さいたま市中央区与野大戸2-10-12		
自己評価作成日	令和3年10月9日	評価結果市町村受理日	令和3年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	令和3年10月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

6月に着任して一番心配な事は職員の気持ちや方向性がバラバラ 日々の不満を口にする事  
ホーム長を信頼出来ない発言でした。私自身不安はありましたが職員と共に、一緒に頑張る事を考えました。  
職員と出来る限り時間を使いコミュニケーションを取りました  
18年目にホーム長として何が出来るか。新しい試み外国人の採用です。現在5名の外国人スタッフが働いています。  
約1カ月トレーニングを一緒に行いました。現在は自立をして各階の戦力になっています。  
言葉の違い 文化の違い 習慣などを観察して 出来る事を伸ばす 自信をもたせる事  
これからは外国人でも日本人でも差別のない社会 業務内で助け合える気持ちを  
職員と作り、良いホーム運営が出来る施設にして行きたいです。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当時業者はJR埼京線「南与野」東口より徒歩9分程にある、鉄筋コンクリート3階建の3ユニット定員27名のグループホームである。駅近でアクセスが良く、家族の面会や外出など、利便性が高く、目の前には大戸公園があり、緑豊かな住環境で季節を感じることができる。管理者の交代が6月にあり、着任当初は様々な苦勞があったが、職員との信頼関係構築に努め、働きやすい環境づくりに向けた取り組みを行っている。地域や家庭との結びつきを大切に、家庭的で穏やかな雰囲気の中で充実した生活が送れるよう、全職員で一人ひとりに寄り添ったケアに取り組んでいる。前年度の課題として目標達成計画にあげていた「災害対策」については、工夫をしながら年2回の実施を予定している。「日常的な外出支援」については、コロナの感染対策に留意しながら、敷地内に菜園を作り、戸外活動を行っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が見やすい所に掲示している。 年間目標は職員の意向を確認して決めています。	職員の目の付く場所に理念を掲示し、いつでも確認できるようにしている。職員会議で振り返り、意識の共有を図り、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナの影響で地域との交流はすべて中止をしています。	自治会に加入しており、地域の情報は大家さん等から得ている。従前は地域の保育園児とのふれあいや地域ボランティアを受け入れていたが、現在はコロナ禍により、交流が図れていない状況にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在コロナの影響で全ての活動を停止しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナの影響により活動を停止しています。 テーマ資料の準備は9月から再開をしています。	コロナ禍により、運営推進会議を中止しており、家族や参加メンバーにその旨を知らせて理解を得ている。再開に向け準備中である。	本会議は地域の理解と支援を得る貴重な機会であり、重要な位置づけとなっており、コロナ収束後は地域住民にも声掛けし、参加を募り、開催されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の開催が出来ていません。 開催準備は9月から随時行い10月以降開催を 開催して行きたいと思えます。	管理者は6月に着任した後、すぐに市担当課を訪問し挨拶を交わしている。メールや電話で解らない事や相談等、密に連絡を取り合い、良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月職員会議を開催 身体拘束廃止委員会を毎月開催しています。 会議録に確認は職員に印を押して貰っています。	勉強会を毎月実施しており、奇数月には虐待防止、偶数月には身体拘束について学んでいる。また、全職員に理解を促すためレポートを提出させ、拘束をしないケアに向けた意識の共有を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月高齢者虐待防止委員会を開催 ケアーの見直しを行います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナの影響により研修の参加が出来ません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族様の不安が無い様に説明をしています。 契約時にお時間を頂くことを事前をお願いをしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々のケアで対応出来る様に支援しています。 言葉が一方通行にならない様にご利用者様の言葉にも耳を傾け対応しています。	契約時に相談、苦情等の窓口があることを説明し、電話や面会時等、何でも言って頂けるような雰囲気づくりを心掛けている。出された意見等は会議で話し合い、可能なものは運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア会議後に全体会議を設定しています。各階の事例を全体会議の議題にしています。	毎月のユニット会議や職員会議で意見や提案を聞いており、年2回、個人面談があり、より個人的なことを聞く機会がある。ホーム長は日頃から職員とのコミュニケーションに心掛け、話しやすい雰囲気づくりに留意している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上半期 下半期で個別個人面談を開催 人事評価にも反映をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時のキャリア研修、外国人研修 段階別研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設との交流は出来る限り少人数で参加をしています。9月業者主催食事試食会に参加しました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は職員が配慮をして出来る限り既存のご利用者様と交流が出来る様に配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に出来る限りご家族様より聞き込みを行う。アセスメントを行い入居後も困らない様に職員へ周知しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在見学対応はリモート見学の為リモート内でも内容が薄くならない様に配慮をしています。後日電話対応なども受け付けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	現在はコロナの影響により面会の制限を設けています。事前連絡後ホーム側で許可が出来たご家族様のみ、エントランスで10分程度の面会を許可しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ影響により面会が出来ない為電話などを使い交流できる様に対応しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は外出に制限がある為、ご家族様にもご理解を頂き通院時の外出のみ許可しています。	生活歴やアセスメント、家族からの情報により、馴染みの関係を把握している。現在はコロナ感染予防により、面会や外出を制限しており、馴染みの人との関わりができていない状況である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食後の片づけ 洗濯たたみなどを皆さんで行っています。女性が主に活躍しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後でも相談が出来る様に配慮をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々のケアを大切にしています。ご利用様が安心、安全に生活できる様に職員は配慮をする。時にご家族様へ相談をしてアドバイスを頂いています。	日々の関わりから、本人の言葉や表情等から、思いや意向の把握に努めている。家族と相談し、協力を頂きながら、どのように暮らすことが最良なのか日々検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活パターンが変わらない様に対応出来ることは支援しています。馴染みの食器などを持ち込んで生活しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の変化には常に意識を持ち、主治医に連絡をいれる。職員同士で共通の認識を持ちご家族様には常にホーム内の様子を報告しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を行いプラン作成後プランの内容に反らない様に対応しています。	本人、家族の要望を伺い、計画担当者が中心となり、全職員で意見交換をし計画を作成している。更新時や状況変化の都度、話し合い、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット端末を利用して生活記録の入力を行っています。必要時は申し送り表を使い職員へ周知しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用様の声に耳を傾け意向や要望などをサービスに反映します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前はボランティア活動なども積極的に受け入れていました。再開出来る様に準備をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間ホームドクターとして対応が出来ます。 ドクターコール 臨時往診なども柔軟な対応が出来る体制が作られています。	希望するかかりつけ医の受診支援を行っており、通院は家族対応となっている。協力医(内科)はホームドクターとして24時間体制で対応して頂いており、適切な医療が随時受けられる体制となっている。訪問歯科は月2回となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師の訪問は月に4回、体調不時はドクターより訪問看護へ連絡を入れて医療が出来る体制が出来ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院後はご家族様に定期的に連絡を入れて情報を頂いています。必要時は医療連携室へ連絡をして職員へ報告しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様のご要望を伺い主治医との話し合いを行っています。ご家族様と主治医の面談を設けてホームでの生活の中で出来る事、出来ない事をご理解して頂き今後の生活を決めて頂いています。	重度化した場合の対応に係る指針を定めたものがあり、入居契約時に説明を行っている。状態変化の都度、意向を確認し、職員、医師が連絡を取り合いながら方針を共有、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを職員がいつでも回覧できる 様に対応しています。(防災)(事故)(救急)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を開催しています。 前半6月まで 後半3月までに必ず行う社内ルールがあります。	年2回実施をしており、1回目は7月に消防署に届けを出し、入居者、職員が参加の総合訓練を行っており、次回は3月に夜間を想定した訓練を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用様をあだ名で呼ばない 「ちゃん」をつけないなどの決まり 外部の方に話が漏れない様に注意をする。	一人ひとりの人格を尊重し、日々の関わりから周りに配慮した言葉掛けや対応ができるよう、毎月のユニット会議や職員会議で話し合い、人生の先輩として敬う心を持って対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりわかりやすい言葉を使い傾聴をしています。 おやつなどは選べる様に工夫をして提供しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のリズムに合わせて生活ができる様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整容を行います。 衣類の交換時は職員がお手伝いをする事もあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態を常に見直せる体制が出来ています。 出来る限りご自身で食事が出来る様に食器を選び提供をしています。	チルド食を取り入れている。本人自ら食事が出来るよう食器を工夫し、職員の手で盛り付け、一人ひとりに合った食事形態で提供している。ご当地メニューや食事レクを設け、楽しい食事となるよう留意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表を使い水分量を確認しています。 時にはドクターに相談をして栄養ドリンクなどを処方して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回歯科医師訪問 毎週衛生士の訪問 毎食の航空ケアを習慣にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使い排便の確認 尿の確認を行う排便コントロールができる様にドクター連携をして対応しています。	個々の習慣や排泄パターンを把握し、一人ひとりに沿った対応方法を検討している。自尊心に配慮し、さり気なく声掛け誘導し、トイレでの排泄を目標としながら自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の持ち込みなどをお願いしている方もいます。砂糖の代わりにオリゴ糖を使用している方も居ます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中 午後の入浴時間を設け 個々のペースで入浴を楽しんで頂いています。	週2回、午前と午後に入浴時間を設けている。その日の気分や体調を考慮し、一人ひとりがゆっくり入浴して頂けるよう支援している。拒む方には無理強いをせず、声掛けや時間をずらすなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はご自身のペースで対応しています。余暇の時間は居室内でゆっくりできる様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が事務所内で管理をしています。薬局よりセットされている処方薬を間違えない様にWチェックを行い服用しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各階で毎日レクリエーション活動を行っています。リモートを使い月に数回のリモート体操を行っています。社内健康増進課の企画		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ前は公園などの散歩レクリエーションも 実行していました。与野公園などで薔薇を見に行く計画なども行っていました。	現在はコロナ対応のため、面会や外出を自粛して頂いているが、庭にトマトやキュウリ等の野菜を植えたり、バケツを用いた田植えをしており、天気の良い日は野菜や米の発育具合を見たり、敷地内を散歩したりして、気分転換をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はご家族様にリストを渡し不足分の買い物はお願いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は自由に対応出来る様に支援しています。電話などは取り次ぎ事務所内で対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節内の壁画、レクリエーション後の写真なども掲示をしてご利用者様に見て頂いています。	リビングには大きな窓があり、彩光が充分で明るく快適な空間となっている。行事の写真や季節の貼り絵等の作品を飾り、季節を感じて頂いている。また、空調に気を配り、室温、湿度も管理され、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをフロア内に置きくつろげる時間を提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真などを飾りレイアウトをしています。テレビなどを置き個人の時間を楽しんで頂いています。	居室にはエアコン、ベッド、チェスト、クロゼット、洗面台が設置されている。今までの生活スタイルで暮らせるよう、使い慣れたものや思い出のもの、テレビや写真等を持ち込んで頂き、自分の家として居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事は時間がかかってもやって頂く支援をしている。職員は出来る限りご利用者様のペースで生活できる様に支援している。		